

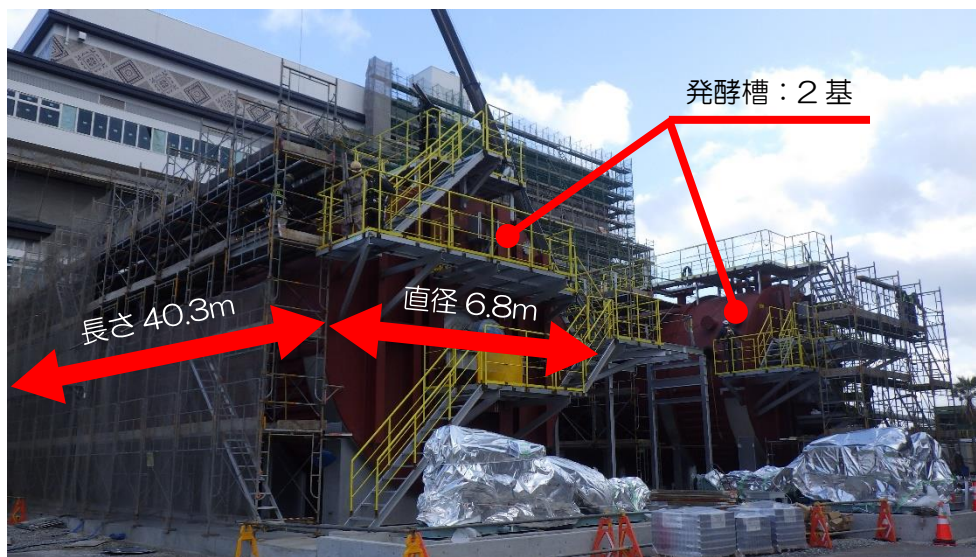
～新南部清掃工場の特徴を工事進捗と合わせて紹介します～



新工場トピックス No.8(バイオガス施設編 1)

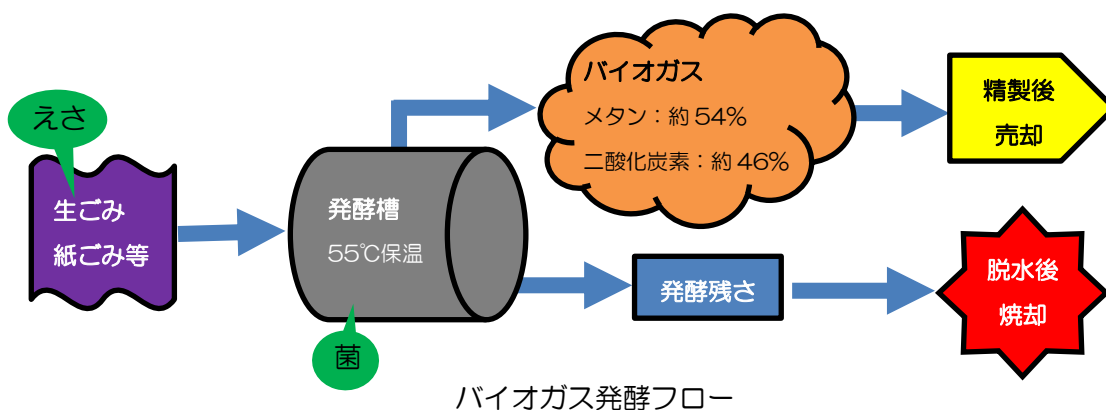
生ごみ・紙ごみ等を発酵させ、バイオガスに

新南部清掃工場には、もやせるごみを焼却する施設だけでなく、バイオガスを発生させる施設も備えています。令和3年3月現在、発酵槽の外観が現れてきましたので、今回のトピックスでは、「バイオガス発生の仕組み」を紹介します。



発酵槽でバイオガスを発生させるのに必要な要素は、主に菌、えさ、環境です。

- 菌：水温 55℃で活動するメタン生成菌
- えさ：もやせるごみから選別された生ごみや紙ごみなど
- 環境：発酵槽内の「酸素がない」、「pH やアンモニア濃度が適正」



環境を整えると菌の働きでえさが発酵し、バイオガスが発生します。発酵されなかったごみは脱水後焼却されます。また、バイオガスは精製（メタンを分離）後、都市ガスの原料としてガス事業者へ売却されます。



工事進捗動画も
ご覧ください！

バイオガス施設の設備紹介は『バイオガス施設編2』に掲載予定です。

<https://youtu.be/Rh7mr9OuVt0&t=8s>